

# 留学生の窓

Window of Foreign Student

# from France



ダルン ケビン

研究生  
人間環境学専攻

<http://www.ems.k.u-tokyo.ac.jp>

リヨンはパリ、マルセイユに次いでフランスで3番目に人口の多い都市です。フランスの南東部、ローヌ・アルプス地方のローヌ川とセーヌ川が合流するところにあり、スイスやアルプス山脈と接しています。リヨンといえば、まず何よりもその食が有名です。リヨンはフランスの「美食の首都」と呼ばれています。リヨンとその周辺地域には、ロゼットやグ



quenelles:小麦粉と牛乳で作る。さまざまな風味がある。

ラトン、クネルなどの豊富な郷土料理があります。それらの多くはcharcuterieと呼ばれる豚肉を用いたものです。町を歩けば、この地の食材を用いた料理を出すレストラン

が至るところにあります。これらのレストランはリヨンにしかないが、フランス全国で有名です。世界で最も有名なシェフの一人であるPaul Bocuseもリヨン近郊の生まれです。この地にいくつかのレストランを持っています。彼はリヨンとその豊かな食の名声を高めるのに貢献しています。リヨンはワインでも有名です。ボジョレやコートデュロースはこの地域でとれるブドウから造られています。リヨンに行けばフランス最高の食と出会えます。ぜひリヨンに行き、「Bouchon Lyonnais」のフランス料理とワインを試してほしいです。

リヨンでは年間を通して様々な催しが行われています。たとえば5月には音楽の祭りが一週間にわたって開催されます。街では沢山のコンサートが開かれます。私の学校INSA Lyonでも、「24H INSA」というイベントがあります。そこでは3日間にわたり、コンサートやスポーツイベントに自由に参加することができます。12月初旬には「光の祭り」があります。この祭りでは、4日間、光を用いた様々な催しが街中で行われます。人々は窓の外にキャンドルを立てて街を華やかに彩ります。

最後に、リヨンでの生活について紹介します。リヨンには多くの外国人留学生がおり、様々な活動やパーティーが行なわれています。交通機関が発達



「光の祭り」で美しく彩られたリヨンの教会「Primatiale Saint-Jean」

していて値段も安いので、街中に散らばるクラブや映画館などに気軽に行くことができます。たとえば街中で使える学生定期は1ヶ月25ユーロ、日本円にして約2600円です。また、リヨンはスキー場にも海にも近いので、休暇の行き先に困らない、恵まれた場所にあります。

リヨンの魅力のほんの一部を紹介しましたが、百聞は一見に如かず、ぜひ一度訪ねて、その魅力を直に感じて欲しいです。皆さんの好みは何であれ、リヨンに行けば必ず好きなものを見つけることができると思います。リヨンで4年間学生生活を過ごした私が言うのだから間違いありません。それほどリヨンという街は魅力と見所にあふれた街なのです。

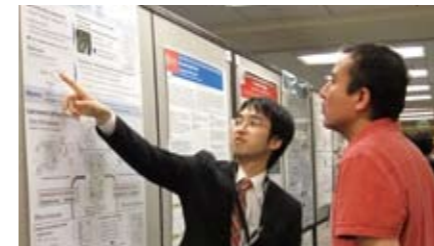


リヨンの特産物



リヨンの市電

2012年5月にアメリカ・カリフォルニア州・サンフランシスコで開催された第10回超臨界流体国際会議 (International Symposium on Supercritical Fluids: ISSF) に参加し、研究発表を行ってきました。ISSFは、超臨界流体 (高温高圧の水や二酸化炭素) の特性やその応用に関する研究報告が多数行われる国際会議です。今回は350件を超える発表が行われ、四日間にわたり活発な議論が行われました。私はその中で、高温高圧の水が反応に



ポスター発表の様子

及ぼす影響について、ギ酸の分解反応を例として発表しました。

初日は深夜の羽田を立ち、夕方のサンフランシスコに到着しました。タクシーでホテルに向かう最中、大きなフリーウェイを見慣れない車もものすごい勢いで走っている光景を見て、そのスケールに早くも圧倒されました。初日は登録だけ行って、チャイナタウンで食事をして、お酒もほどほどに就寝しました。私の発表 (ポスター) は二日目でした。慣れない英語での発表、想定外の質問に悪戦苦闘しながらも、なんとかいろいろな国の人と議論をし、客観的な立場から有意義な意見をもらうことができました。事

前には110分もあったら退屈な時間もあるかなと思っていましたが、意外にも人が絶えることなく、多くの人に説明することができました。自分の研究に興味を持ってくれる人が、海外にも少なからずいることを肌で感じることで自信になる、そんなひと



クルーズ船内にて

きでした。三日目は、同じ研究室の人たちのポスター発表があり、今度は写真係として活躍しました。また、全日程を通じて、名前では知らない権威の先生方の生の声をたくさん聞くことができたことは、ミーハーな心が満足されるだけでなく、今後の研究においてとても刺激になる経験でした。

一方、このような発表の合間には、きちんと観光も楽しみました。ピア39のアシカにギラデリスクエアのチョコレート、AT&Tパークでの大リーグ観戦...とすべて挙げれば足りませんが、街全体がテーマパークのようなサンフランシスコを満喫することができました。また、学会の三日目の夜にはサンフランシスコの海をクルーズするというイベントに参加しました。海外の研究



夜のゴールデンゲートブリッジ (船上から)

者の人々と豪華な食事に舌鼓を打ちながら、海から見るアルカトラズや真下から見る夜のゴールデンゲートブリッジなどを貴重な視点から楽しむことができました。

このように、学会から観光まで満喫した四日間でしたが、振り返ってみると、初めての海外でしかも英語での発表ということもあり、出発前は不安ばかりが募り、「行きたくないな」と思うこともありました。しかし、いざ経験してみると、普段触れることの無い文化に触れることができ、その一つ一つが新鮮で、視野が狭まりがちな普通の生活に心地よい刺激を与えてくれる体験だったと思います。こういった一歩踏み出してみることの大切さというものを強く感じたこと、また、世界の第一線で活躍する研究者たちに会うことで刺激をもらうことができたこと、これらははじめての海外、国際会議で得た大きな収穫だと思えます。

最後になりましたが、本学会発表にあたり、平成23年度 (後期) 東京大学学術研究活動等奨励事業 (国外) による支援をいただきましたことを心より感謝いたします。

## 学会参加報告

Meeting Report

## for USA



藤井達也

環境システム学専攻  
大島研究室 博士課程3年

<http://www.oshimalab.k.u-tokyo.ac.jp/>